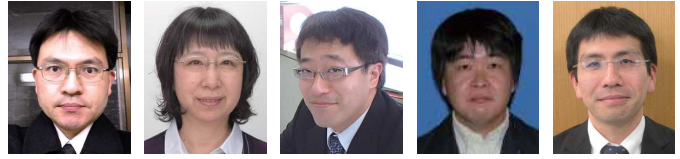


地域との協働による 道路環境・空間整備

(研究期間：平成29～30年度)



道路交通研究部 道路環境研究室

室長 井上 隆司 主任研究官 小栗 ひとみ 主任研究官 大城 温 研究官 長濱 庸介 研究官 瀧本 真理

(キーワード) 地域との協働、道路環境、空間利活用、維持管理

1. はじめに

良好な道路環境の創出には、適切な道路環境の保全の長期的かつ継続的な実施や、道路空間の利活用の促進による賑わいの創出が必要である。これらの取組みを進めるためには、地域・住民との協働、連携が不可欠となる。そこで、道路環境研究室では、官民連携によって、道路環境保全や道路空間の利活用を効果的・効率的に進めるための方策について検討を行い、これらの取組みにおいて道路管理者や地域・住民等の各関係主体が有効に活用できるガイドラインをまとめることとしている。

2. 効果的な道路環境保全の実現に向けた検討

行政サービスが多様化・複雑化する中、道路環境の保全対策のすべてを道路管理者だけで担うことが難しくなっている。そのため、地域の共有財産である道路の環境保全について、保全内容や地域の状況を踏まえ、地域・住民との協働（道路協力団体制度（写真1）¹⁾やボランティア・レポート・プログラム等）による保全対策を検討する必要がある。本調査では、道路環境保全における地域・住民との協働についての活用可能性を明らかにすることを目的として、既に取り組みされている好事例を収集し、本制度を活用するうえでの留意点や課題を整理する。

3. 道路空間の持続的な利活用のための検討

国土交通省では、道路空間の利活用ニーズの高まりを受け、道路空間を活用した地域活動の推進に取り組んでいる²⁾。道路空間の利活用における合意形成では、交通への影響や安全性等の要件が議論されているが、占用時の交通等の実態や道路空間の利活用の効果等の知見が蓄積されていないため、その対応に多大な時間を要している（図1）。本調査では、道路空間の利活用促進に向けて、効果的・効率的な



写真1 道路協力団体制度の活動イメージ
(出典：国土交通省ホームページ)

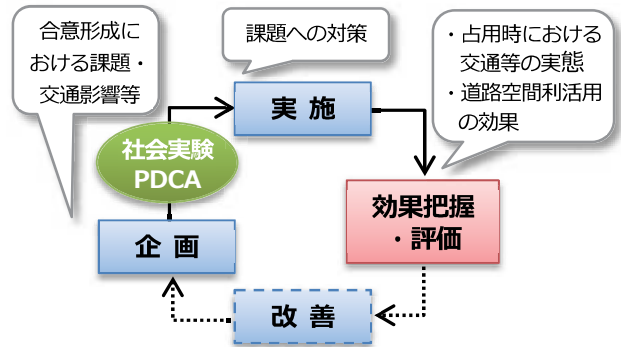


図1 合意形成の円滑化に向けて共有が必要な情報

合意形成の進め方を提示することを目的とし、道路空間の利活用の実施事例から、合意形成において課題となった要件を整理した上で、円滑化のための対策と占用時における交通等の実態および道路空間の利活用の効果を調査・分析する。

【参考】

- 1)道路協力団体制度
<http://www.mlit.go.jp/road/kyorokudantai/index.html>
- 2)国土交通省道路局:道を活用した地域活動の円滑化のためのガイドライン-改定版-,平成28年3月